

高齢者の 運転を考える

高

齢者ドライバーによる事故が後を絶ちません。平成31

年4月19日、東京都池袋で80代の男性が運転する車が赤信号を無視して横断歩道に突っ込むなどし、運転者を含め12人が死傷した事故。アクセルとブレーキを踏み間違えたことが原因とされています。同様にアクセルとブレーキを踏み間違えた事故が道内でも発生しています。令和元年12月6日、江別市のイオン江別店の駐車場で80代の男性が運転する車が十数台の車に衝突した交通事故。この男性は今年の11月にも同じ駐車場で同様の事故を起こしていました。

平成30年の全道の交通事故死者数は、141人（前年から7人の減）と、

交通事故統計の記録が残る昭和22年以降、最も少ない

人数となつています。しかし、高齢者ドライバーが起した死亡事故は40人と、前年よりも5人増え、全体の28・5%と、前年よりも4・9%増加しています。ふらついて車線を越える車。一時停止せず交差点に進入する車。いずれも、運転していたのは高齢者です。75歳以上の高齢者ドライバーが起した死亡事故の割合は年々増加し、深刻な社会問題となっています。

しかし、買い物や病院通いなどのために車が手放せないという高齢者も少なくありません。高齢者が安全に車に乗り続けるためにできることは何でしょうか。北海道釧路方面釧路警察署交通第一課長の米田雅史警部に話を聞きました。

米田 75歳以上の高齢者には、記憶力や判断力を調

べる「認知機能検査」を行うことになっていきます。平成29年3月に施行された改正道路交通法では、検査結果が「認知症のおそれあり」と判断された場合は、専門医の診断が義務付けられ、認知症と診断されると、免許の取り消し、または停止になります。一方、その手前「認知機能低下のおそれあり」と判断された場合は、専門医の診断を受ける必要はなく、3時間の臨時高齢者講習を受ければ免許の更新が可能となっています。

免許更新の際に「認知機能検査」を行っているにも関わらず、高齢者の事故が続いていることをどう考えていますか。

米田 高齢者にも個人差がありますので「認知機能検査」だけでは測りきれないのだと思います。あくまでも検査は目安ではないということですが、また、検査後に状態が変



北海道釧路方面釧路警察署交通第一課長の米田雅史警部

わってしまうこともあるかと思えます。ですので、家族や身近な人が見守りをして、ちよつと様子が変わった場合は、きちんとした検査を受けることが大切だと思います。

免許返納について悩んでいる方や、家族の悩みについて、どのような相談が寄せられているのでしょうか。

40代男性 80歳になる父がいるのですが、近頃注意

力が散漫になっており、運転させるのには不安があります。家族で免許返納を進めましたが、本人は大丈夫だと言って聞き入れてくれません。ですが、家族が送迎するのは難しく「免許返納」を強く言うこともできません。

80代男性 交通事故の被害に遭った。逆の立場だったらと考えたら、運転しない方がいいのだろうと思うのだが、免許があれ